

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



平成三十年
鏡開き式・武道始め

川端達夫大將軍による鏡開き

平成三十年鏡開き式・武道始め

新年に武道の隆盛と発展を祈る

平成三十年鏡開き式・武道始め（主催Ⅱ日本武道館）は1月8日、日本武道館で開催された。武道関係者、愛好家ら2400名が参加して、武道功労者・優良団体の表彰式、鎧着初め・鏡開き式、武道9種目の模範演武、武道始め（各道稽古会）が盛大に行われた。

2016年12月に行われた日露首脳会談の際に、安倍晋三内閣総理大臣とウラジミール・プーチン・ロシア連邦大統領の間で、日露関係の1層の深化・発展と二国間関係の友好及び相互理解の強化のために、本年を「ロシアにおける日本年」及び「日本におけるロシア年」とすることで合意した。

今回、その2018年「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」の実施に先立ち、鏡開き式にはロシア連邦スポーツ省次官とロシア武道連盟役員の計3名が来日して参加。鎧着初めでは堂々とした鎧武者姿を披露した。

■開会式 定刻の正午、大太鼓の合図で鏡開き式、武道始めを開始した。

開会宣言の後、国歌斉唱に続いて、主催者を代表して高村正彦日本武道館会長が挨拶に立った。

「年の始めに心を新たに、今年も武道振興のために尽くそうとご参加いただきましたことに心から感謝申し上げます。武道は礼に始まって礼に終わる、それぞれの武技を修練する中で心と体を鍛える、そして、人間が生きていくべき道を求めるといふ、日本独特の伝統的運動文化であります。この誇るべき武道を子供たちの教育に生かそうと、平成24年度から中学校保健体育で武道が必修化となりました。日本人なら誰でも武道に



鎧着初めで大將軍を務める川端達夫日本武道館常任理事

触れたことがある。こういう形、仏を作ることができたわけですから、これからはその仏に魂をしっかりと入れていかなければなりません。全国津々浦々の武道家の皆様、武道関係者の皆様のご協力があつて初めてこの仏に魂を入れることができます。皆様のますますのご健勝を心よりお祈りし、お願いを申し上げます」

次に宮川典子文部科学大臣政務官が祝辞を述べた。

「平成24年度から中学校の保健体育で武道が必修化され、礼や礼儀が武道を通じて子供たちに伝わっていることを実感しています。皆様が武道に打ち込み、日々積み重ねてきているものが、間違いなくこれからの世代にも受け継がれていきます。武道の素晴らしいところは、礼に始まり礼に終わるといふ一つの筋が通っていることと、若い頃から始めても年を重ねてから始めても、その精神に変わりはないということです。私は剣道二段で、剣道を始めたのは28歳の時です。武道の素晴らしさ、そこから学び得るものというのはいくらでもあります。日本は生涯スポーツに大変力を入れており、武道の精神を



セルゲイ・コシロフ
ロシア連邦スポーツ省次官



宮川典子文部科学大臣政務官



高村正彦日本武道館会長



大將軍に続いて全軍が関の声を上げる



副將軍2名による鏡割り



大將軍が神前で誓いの言葉を奉読

その中に入れていきたいと文部科学省は政策を進めております。これからも武道の素晴らしさが皆様に伝わる体制作りを頑張つてまいります」
 続いてセルゲイ・コシロフ・ロシア連邦スポーツ省次官の祝辞が述べられた。
 「主催者及びご列席の皆様にご挨拶を申し上げられることを大変嬉しく思います。本年は『日本におけるロシア年』『ロシアにおける日本年』と定められました。この枠組みにより、日本武道館代表者によるロシア訪問が行われるとともに、ロシアの武道家による伝統的武道種目のデモンストレーションが日本において開催されます。武道分野におけるこれらの露日交流は、非常に周到な準備のもとで行われ、観客の皆様に対して多くの肯定的な感情を呼び起こすとともに、露日間の関係強化促進を確信しております。新年における皆様のご多幸、そして今後の目標を成功裏に達成されますよう祈念いたします」
■ 武道功労表彰式 続いて別掲のよう
 うに、武道功労者10名と武道優良団体9団体の表彰式が行われた。



【武道功労者】

- ▽柔道 野村基次 (奈良)
- ▽剣道 鳥居泰彦 (東京)
- ▽弓道 柴田 猛 (茨城)
- ▽相撲 竹内晋峯 (愛知)
- ▽空手道 近藤彰郎 (東京)
- ▽合気道 竹中日出雄 (和歌山)
- ▽少林寺拳法 本田演昭 (愛媛)
- ▽なぎなた 砂川邦子 (福岡)
- ▽銃剣道 大丸知之 (鹿児島)
- ▽日本武薙 川端達夫 (滋賀)

【武道優良団体】

- ▽柔道 パーク24株式会社柔道部
- ▽剣道 滋賀県立武道館
- ▽弓道 宮崎県弓道連盟都城支部
- ▽相撲 早稲田大学相撲部
- ▽空手道 近畿大学空手道部
- ▽合気道 神奈川県合気道連盟
- ▽少林寺拳法 少林寺拳法関東連絡協議会
- ▽なぎなた 愛媛県なぎなた連盟
- ▽銃剣道 愛媛県立東温高等学校銃剣道部

※武道功労章受章者による寄稿文は11～31頁に、武道優良団体の紹介は168～169頁に掲載されています。



武道始め (各道稽古会)

■**鎧着初め** 本年の鎧着初めは川端達夫日本武道館常任理事が大將軍を務め、副將軍として吉田忠征日本柔道連盟代議員、永田仁志日本甲冑武具研究保存会副会長が脇を固めた。大將軍は三献の儀を行い、神前で誓いの言葉を奉読した。

■**鏡開き式** 大將軍は掛け矢で大鏡餅を、副將軍は鏡樽を開いた。兜を着用した大將軍が扇を打ち振りながら「えい、えい」と呼びかけ、全軍が「おう」と応え、鬨の音が響き渡った。行軍に移り、前軍から出立し、中軍、後軍が続いて大道場を悠然と練り歩いた。

■**模範演武** 次に各道代表者による模範演武が弓道、剣道、空手道、なぎなた、相撲、銃剣道、合気道、少林寺拳法、柔道の順に披露された。緊迫感漂う演武が披露されるたび、観客から大きな拍手が上がった。

■**武道始め** 続いて参加者たちが続々と大道場に下り、会場を埋め尽くして、弓道を除く現代武道8道の武道始め(各道稽古会)が行われた。

■**おしるこ会・閉会** 最後は参加者に汁粉や樽酒が振る舞われ、新年の精進と上達を誓い合った。

鎧着初めを終えて



◎川端達夫日本武道館常任理事

「武者震いという言葉がありますよね。甲冑かっちゅうを身につけた時にその言葉の意味がよくわかりました。緊張と高揚のようなものを覚え、この大役を仰せつかったのは大変名誉なこと

で感激しております。

(三献の儀について)その時は気分として、將軍になった気持ちですから、『よし! これからみんなの先頭に立って頑張るぞ!』とそういう気持ちでした。大将の気持ちがわかりました。

(行進している時は)多くの方にお

越しいただいている中で、この古式豊かな武道の原点に携われていることを誇らしく思いながら、また、みなさんの心に残るように噛み締めながら行進いたしました。

日本人は世界の中でも非常に礼儀正しい、いつも相手のことを思いや

りながら正しい振る舞いができるというところで世界からも敬愛されています。その原点に日本武道というものが大きな影響を与えており、それをみんなが大事にしている。本日は

一年のスタートですから、そういう意味でこの式典に参加することに大きな意義があると思っています。

(中学校武道必修化について)ちょうど文部科学大臣に就任したのがスタートの前の年でした。場所、道具、指導者という財政的、人的なものを含めて、どうやって準備をするのかという大変なところからのスタートでした。教育ですからいきなり成果が現れることはないんです。地道なものだと思います。もともと日本人のDNAに礼儀正しさが備わっているとありますので、着実に効果は現れてきていると学校現場の先生はおっしゃっています。

いま国際的に武道が広がってきているのは大変喜ばしいのですが、日本国内の武道人口が相対的に減ってきていることが心配です。オリンピック・パラリンピックを契機に子供たちに関心を持って武道をやつてもらえるといいなと思います。

今年はありませんが、平和で明るい未来が見える国になつてほしいと願っています。それぞれが役割を果たせる年になつてほしいです」





◎吉田忠征全日本柔道連盟代議員

「無事に終わってホッとしました。このような役目を与えていただき、本当に光栄に思います。この思い出をずっと大切にし、今後の生活の礎いしづえにしたいと思っています。

(鎧着初めに) 孫が一般公募で参加しておりました。孫と二人で参加できたことがとても嬉しく、感動しております。

このように甲冑を着て行進するということは初めてでした。甲冑を着ると、思った以上に窮屈な感じがしますね。同時に、身が引き締まる思いがいたしました。

年始早々に、このような式典に参加することができ、気持ちを新たにすることができました。この

気持ちで一年間ずつと持ち続けられたらいいなと思います。

今日感じたことは、人間にとって緊張状態というものは必要なのだという事です。ダラつとするよりも気持ちを引き締めていくということが大事です。この伝統行事である鏡開き式・武道始めへの参加は、そういったことを確認する、一つの良い機会になったと思います」



◎セルゲイ・コシロフ・ロシア連邦スポーツ省次官

「この鎧というのは、自分自身を守るためだけでなく、自分の近しい人、大切な人を守るためのものです。質量以上に重たいものを感じ、言葉には言い尽くせない重さがある、強い印象を受けています。

行軍中は、単純に甲冑が重かったという記憶があります。それと同時に、ただ歩くのではなく、勇ましく戦地に赴き、守るべきものを守る、そういった決意が表れる大事な行進だという印象を受けました。

自分たちの歴史や伝統を忘れた

民族に将来はありません。そういった意味で、この大事な伝統を守る行事である鏡開き式・武道始めに関わる方々に対し、大変な敬意を表したいと思います。

私は日本の文化の専門家ではなく、詳しいというわけでもありません。一つ申し上げられるのは、日本人はとても正確で、几帳面で、真面目な気質を持っているということです。私はそう理解しており、そんな日本の皆様を素晴らしいと思いますし、私たちも学ばなければならぬと感じています。

模範演武



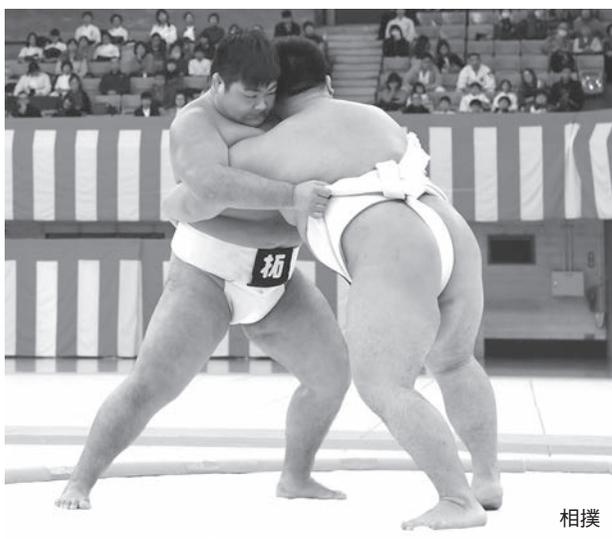
弓道



なぎなた



柔道



相撲



合気道



空手道



少林寺拳法



銃剣道

【模範演武】

- ▽弓道Ⅱ「一つの坐射礼」(坂本達雄 教士七段、中條大輔教士六段、前田 かつり教士六段)
- ▽剣道Ⅱ「全日本剣道連盟居合」(小倉昇居合道範士八段)
- ▽空手道Ⅱ「ウンスー」(岡本沙織三段、平紗枝二段 武儀山舞二段)
- ▽なぎなたⅡ「全日本なぎなたの形」(中村ゆり子範士、葉山奈緒美教士)
- ▽相撲Ⅱ「基本動作と技、決まり手の説明」(舛田守八段、中山綾太三段、寺沢陸三段、松原雄大三段、堤勇磨三段、志村大器三段)
- ▽銃剣道Ⅱ「銃剣道の形、銃剣道応用技、銃剣道対短剣道異種試合」(小川功範士八段、久保田学教士八段、
- ▽柔道Ⅱ「古式の形」(清家春夫八段、小池健三六段)
- ▽少林寺拳法Ⅱ「単独演武、女子組演武、男子団体演武、自由組演武」(石井明仁大拳士五段、川島佑斗正拳士四段、横山可奈子初段、上野絵美初段、小西遼四段、白石和馬三段、石井堅悟三段、鈴木康平三段、石井勝教三段、小森勇輝四段、大谷紘嗣四段、田川治緒二段)
- ▽合気道Ⅱ「基本技(投げ技・固め技)、応用技(短刀取り)、自由技」(栗林孝典七段、森智洋六段、鈴木俊雄五段、小山雄二五段、梅津翔四段、里館潤四段、鈴木昂平二段)



剣道

武道始め



おしるこ会



心新たに柔道の普及発展に努める

講道館鏡開式は1月14日に、全国から500名の修業者、関係者が集まって講道館大道場で行われた。

式は午前10時に開会した。はじめに館員を代表して河崎武夫八段が賀詞を述べた。

「近年の講道館柔道の課題は、大きく2つに分類できると思います。1つは競技としての柔道です。柔道の発祥国として日本は常に勝たなければならぬ運命を背負っておりません。もう1つは人づくり、教育としての柔道です。柔道の修業を通していかに人間性を高めることができる



上村春樹館長

か、いかに教育できるかということ。講道館の今後の課題になるうかと考えます。我々館員一同は、嘉納師範の遺志を受け継ぎ、柔道の本質を後進に伝達する必要があることを痛感しており、講道館一丸となって取り組む必要があります」

続いて、上村春樹講道館館長が年頭の挨拶に立った。

「今年嘉納師範没後80年の節目の年にあたります。私は心新たに柔道の正しい普及振興に努めてまいりたいです。嘉納師範は『柔道は心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は攻撃防禦の練習に由つて身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。さうして、是に由つて己を完成し世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である』と遺訓で残されており、この原点に立ち返り、地道ではありますが確実に『精力善用』『自他共栄』の

実践に努め、国内外に正しく柔道の普及振興を図り、後世に正しく柔道を伝えていく責務を果たしていかなければなりません」

その後、7種の形演武、強化選手との少年部・女子部・成年の乱取稽古が披露され、昇段発表証書授与では、各段位に昇段した代表者に上村館長から証書が手渡された。

恒例のしるこ会では、参加者はしるこに舌鼓を打ちながら、仲間との会話に花を咲かせた。最後は、万歳三唱で締めくくられた。



形の演武（五の形）



全日本男子監督の井上康生氏も少年部の乱取に参加



形の演武（古式の形）

■形演武者

◇投の形Ⅱ取・鯨島康太五段、受・大澤利之五段◇固の形Ⅱ取・下山陽那六段、受・福地賢志郎六段◇極の形Ⅱ取・佐藤幸範六段、受・柴崎文伸六段◇柔の形Ⅱ取・秋山日向子女子四段、受・濱名三代子女子四段◇講道館護身術Ⅱ取・池田孝生五段、受・酒卷文孝五段◇五の形Ⅱ取・小志田憲一七段、受・眞喜志慶治七段◇古式の形Ⅱ取・佐藤正八段、受・片田誠八段

合気会鏡開き式

合気道の輪を次代に繋ごう

合気会鏡開き式は1月14日に合気会本部道場で開かれ、全国から1000名弱の修業者が集まって新年を祝った。

式は午後2時に始まり、植芝守央合気道道主が年頭の挨拶を述べた。

「合気道の輪は130の国と地域に大きく広がっております。このような大きな輪は、植芝盛平翁が創始された合気道の素晴らしさゆえだと思いますが、今日に至るまでしっかりと稽古されて受け継いできた方々によるものだと確信いたしております。現在稽古している私どもは、この素晴

らしい流れを、良い形で正しく次代へ繋いでいくことが責務だと思えます。同時に合気道で習得したものを、良い形で生活に活かしていく。そして社会貢献をする。これが私どもがやるべきことです。ぜひこの1年、皆様方にはしっかりと稽古をしていただきたいと思えます」

次に、山谷えり子参議院議員と坂三蔵元参議院議員が来賓の挨拶を行った。

植芝道主による奉納演武の後、推薦昇段者発表及び証書授与式が行われた。初段から七段までの各段位昇段者の代表者と、八段に昇段した酒井光雄氏、横田愛明氏に植芝道主が証書を手渡した。

式の終了後は、直会が行われた。多田宏本部道場師範が挨拶を述べ、赤沼二己男理事の発声で乾杯。参加者にはしるこが振る舞われ、和やかな雰囲気、新年の訪れを祝った。



植芝守央合気道道主



八段に昇段し、植芝道主から証書を受け取る酒井光雄氏



植芝道主による奉納演武



直会

800名の参加者を得て、新年を祝う

1月14日、一般財団法人少林寺拳法連盟本部において、「鏡開き・稽古始め」を行い、全国より約800名の拳士、保護者、関係者が参加した。

川島一浩会長の年頭挨拶では、冒頭、昨年開催した少林寺拳法創始70周年各種行事に対する御礼が述べられ、本年の方針が示された。特に中学校武道必修化に対する取り組みの強化、また学校、実業団に部活を増やしていくことが課題の一つとして挙げられた。

稽古始めにおける技術修練では、川島会長より技術披露とともに指導が行われ、道場内を所狭しと修練に励んでいた。参加者は川島会長から直接指導を受けたり、本部職員に質問をするなど、滅多にない機会を活かすべく真剣に取り組んでいる様子であった。

その後、演武会が行われ、老若男

女一人一人が気迫の入った演武を披露。演武会では、競技大会にはない様々な組み合わせによる演武も披露されるなど、少林寺拳法ならではの楽しさが詰まった演武会となった。参加者からは「元気が出た一日だった」「演武は緊張したが、いい思い出ができた」「今年一年目標に向かって頑張ります！」などの感想が聞かれた。

(文・写真)一般財団法人少林寺拳法連盟



集合写真

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体 1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎(柔道)、高野佐三郎(剣道)、阿波研造(弓道)、双葉山(相撲)、船越義珍(空手道)、植芝盛平(合気道)、宗道臣(少林寺拳法)、園部秀雄と三田村千代(なぎなた)、鶴沢尚信(銃剣道)

マンガ・武道の偉人たち



ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

好評発売中

漫画家
別府大学客員教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！

マンガ・武道の偉人たち

田代しんたろう



日本武道館

B5判・並製・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子どもも読んで楽しく、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鷗沢尚信(銃剣道)



編集・発行 公益財団法人日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部

天皇盃・皇后盃 第45回全日本空手道選手権大会

男子個人組手

渡邊大輔が荒賀龍太郎を破って初優勝

女子個人組手は植草歩が3連覇、形は喜友名諒と清水希容が連覇を更新



男子組手優勝・渡邊大輔



試合後に胸上げされる渡邊

第45回全日本空手道選手権大会（主催Ⅱ全日本空手道連盟）が、昨年12月9日（東京武道館）に男女組手団体戦、10日（日本武道館）に男女組手個人戦、男女形個人戦と2日間にわたって開催された。

9日の男子団体組手では京都府が10連覇、女子団体組手では千葉県が2連覇を果たした。

10日の男子個人組手では、渡邊大輔（東京都）が荒賀龍太郎（前年度優勝）の4連覇を阻んで初優勝を飾った。女子個人組手は植草歩（前年度優勝）が帝京大学の後輩の宮原美穂（学連）を接戦で降して3連覇。

男子形は喜友名諒（前年度優勝）が6連覇、女子形は清水希容（前年度優勝）が5連覇を達成した。



決勝＝渡邊対荒賀。渡邊（右）が刻み突きで追加点を奪う

組手個人戦

試合はトーナメント方式で時間は男子3分、女子は2分とし、8ポイント差がついた時点で試合終了とした。同点の場合は「先取」（先にポイントを取ること）の得点がある方を勝者とし、「先取」の得点がない場合は審判の旗判定により勝敗を決した。また、全日本選手権では初めて、準決勝以降の試合で「ビデオレビュー」（以下、VR）が導入された。これは得点表示されなかった技に対してコーチがビデオ判定を求めて、主張が認められれば得点が与えられ、認められなければそれで降権利を失うシステムである。

■男子

54名が出場。84kg級世界ランキング1位で3連覇中の荒賀龍太郎（前年度優勝）は、緒戦（2回戦）で京都産業大学の後輩である杉本一樹（学連）と対戦して3―0で勝利すると、3回戦で飯村吏毅哉（熊本県）に3―1、4回戦で中村良太（山梨県）を5―0で降し、安定した試合運びで準決勝進出を決めた。

41回大会選手権者で、7月のワールドゲームズで優勝した香川幸允（東京都）は、2回戦で窪田桂（滋賀県）を8-0、3回戦で船橋真道（大阪府）を4-0、4回戦で石井颯人（山口県）を3-0で破り、相手にポイントを許さず、順当に4強に勝ち上がった。

反対のブロックでは、84kg級の全日本強化選手で、盛岡市公務員という異色の経歴の石塚将也（岩手県）が勝ち上がり、4回戦で対戦した前回3位の西村拳（学連）にも2-0と競り勝ち、初のベスト4に名乗りをあげた。

渡邊大輔（東京都）は、2回戦で釣義稀（富山県）に8-0、3回戦の五明宏人（神奈川県）との試合を2-1の僅差で制すと、4回戦では、43回、44回大会準優勝の篠原浩人（大阪府）に5-2で勝利して、ベスト4に勝ち残った。

▽準決勝

荒賀龍太郎 3-1 香川幸允

優勝経験者同士の対戦。試合開始直後、荒賀が仕掛ける。軽快なステップから一気に飛び込み、右上段逆

突きを繰り出す。香川もカウンターを合わせにいくが、ここは荒賀が制して先取る。再開後、荒賀が蹴りで牽制を入れてワンツートで攻める

が、今度は香川が右で荒賀の突きを払い落とすと同時に、左の上段をカウンターで決めて1ポイントを取り返す。細かいステップで揺さぶりをかける荒賀と、どつしり構えてカウンターの狙う香川。互いに牽制が続

き、攻めない両者に警告が入る。その後、再び荒賀が上段突きで2点目を獲得。試合終盤、刻み突きでさらに1点を加点した荒賀が7年連続で決勝に進出した。

▽準決勝

渡邊大輔 6-0 石塚将也

共に帝京大学出身で互いに手の内を知り尽くした両者の試合。試合開始後、先輩の渡邊は積極的に前に出て連続で突きを放ち、1点を先取。石塚はこれを上段で受けて、豪快な

上段裏回し蹴りで返す。決まったかに見えたが、これは惜しくもポイントにならず。中盤、刻み突きで攻める石塚に、渡邊はカウンターで上段突きを決める。2-0となり、逆転のために3点以上必要となった石塚は、蹴りでポイントを奪いに行くが、蹴りを警戒する渡邊はしっかりと捌いていく。試合時間残り1分から、さらに渡邊が突きでポイントを重ねて最終的に6-0で勝利。渡邊は初めて決勝の舞台に進んだ。



準決勝＝荒賀対香川。上段逆突きで先制する荒賀（左）



準決勝＝渡邊対石塚。上段逆突きを決める渡邊（右）



決勝＝渡邊対荒賀。攻める渡邊（右）

▽決勝

渡邊大輔2（先取）―2 荒賀龍太郎

初優勝を狙う渡邊と4連覇がかか

る荒賀が対戦。先取したのは渡邊。

荒賀が仕掛けた刻み突きを左で落し

受けて、カウンターで左上段突きを

決めて1ポイント。先制された荒賀

だが、勢いに乗って攻める渡邊の動

きを読み、上段逆突きで1ポイント

を返す。試合時間が1分を切り、ポ

イントで並ぶ両者は激しく攻める

が得点はなく、残り約20秒、渡邊は

荒賀の動きが一瞬止まった隙を逃さ

ず、刻み突きで得点。追い込まれた

荒賀は、蹴りを交えて猛攻を仕掛け

る。残り10秒、荒賀が意地の上段突

きで2―2。その後も荒賀は必死に

攻めるが、渡邊からあと1点を奪え

ず試合終了。荒賀を振り切った渡邊

が嬉しい初優勝を遂げた。

◎優勝Ⅱ渡邊大輔選手（東京都）

「自分がやってきたことが間違じ

やなかったと思えました」優勝後の

インタビューで噛み締めるように語

る渡邊。決勝の相手、荒賀と初めて

対戦したのが第36回全日本選手権の

団体戦決勝。当時高校生の荒賀に9

―3で敗れた。以来、幾度も対戦し

ているが、荒賀には一度も勝ったこ

とがなかった。そんな難敵との決勝

は戦い方を変えて臨んだという。

「いつも遠い間合いから攻めて負け

ていたのが、今回はしつかり狙って

ポイントを取りにいきました。ずつ

と戦い方を変えることは考えていま

したが、できませんでした。今回は

自分の間合いをつくって落ち着いて

相手の攻撃を見極められました」

戦い方を変えられたのは練習量に

裏打ちされた自信のためだという。

「最近の練習時間は1日4、5時間

くらいです。増えた練習量が自信に

繋がりました。2点目も、『これは

いける』という自信がありました」

強敵を撃破して掴んだ全日本の栄

冠。初優勝を果たし、見据える先に

は2020年のオリンピックがあ

る。しかし、世界と闘うにあたり、

足りないものがあるようだ。

「海外の選手は遠間からでも強引に

攻めて、しつこくポイントを取って

きます。自分にはそのしつこさや思

い切りがない。単発や2本目が入ら

ないときに3、4、5と繋げるよう

にしないとけません。日本人にし

かできない組手を追求して海外の選

手に思い切りぶつけたいです」

熱い思いを語ってくれた渡邊。空

手母国の誇りを胸に、世界でも活躍

してほしい。

○準優勝Ⅱ荒賀龍太郎選手（前年度優勝）

優勝

「渡邊選手のペースで試合をやつて

しまったと思います。こういう試合

をしようというイメージが持てない

まま試合になり、そこで先手を取ら

れて崩れてしまったところはありま

した。渡邊選手は、前に出てきて闘

うイメージでしたが、今回はあまり

前に出ず、引き出すような動きでし

た。4連覇を狙っていたので途切れ

てしまい、ショックです」

渡邊大輔の勝ち上がり

| | | | | |
|-----|---|---|---|--------------|
| 2回戦 | 8 | ― | 0 | 釣 義稀（富山県） |
| 3回戦 | 2 | ― | 1 | 五明宏人（神奈川県） |
| 4回戦 | 5 | ― | 2 | 篠原浩人（大阪府） |
| 準決勝 | 6 | ― | 0 | 石塚将也（岩手県） |
| 決勝 | 2 | ― | 2 | 荒賀龍太郎（前年度優勝） |
| | | | | （先取） |

■女子

54名が出場。68kg級世界女王で2連覇中の植草歩（前年度優勝）は緒戦で41回大会準優勝の東世菜（長崎県）を3-0で降して、幸先よくスタートを切る。3回戦は尾立佳菜子（大阪府）を1-1の先取ポイントで、4回戦は森口彩美（学連）を1-0で破り、僅差の戦いをものにして準決勝進出を決めた。

43回大会3位の齊藤綾夏（山口県）は、初戦で中原愛梨（徳島県）を2-0、2回戦は永田梨乃（長野県）を2-0で破り、3回戦で前回3位、2017年プレミアリーグパリ優勝の川村菜摘（愛媛県）を8-0で完封。4回戦の五明真美子（岐阜県）にも1-0で勝利して、2大会ぶりに4強に勝ち残った。

反対のブロックでは、42回大会優勝の染谷香予（埼玉県）が2回戦から登場。高校生の尾形風夏（福島県）、澤江優月（高体連）をそれぞれ3-3の先取、1-0と辛勝して4回戦に進出。4回戦では妹の染谷真有美（茨城県）との姉妹対決が実現。6-3で妹の真有美を破り、貫禄の準決勝進出を果たした。

2016年の世界選手権50kg級銀メダルの宮原美穂（学連）は、1回戦の沖田理奈（福岡県）との試合を3-3ながら先取ポイントで降す厳しい立ち上がりだったが、2回戦の杉本りさ（山梨県）を2-1、安住早代（宮城県）を6-0で破るなど徐々に調子をあげ、4回戦では2017年プレミアリーグパリで決勝を闘った多田野彩香（千葉県）と対戦。宮原はこの試合も2-0で勝利して4強に残った。

▽準決勝

植草歩 4-2 齊藤綾夏

開始から相手の様子を窺い、攻めない両者に忠告。その後も、積極的に攻めない両者に警告が入る。試合に動きがないまま残り20秒、齊藤が足払いで牽制を入れてから、すかさず刻み突きを放ち、これで1点を先取する。得点を奪いに前に出る植草は、齊藤の刻み突きに合わせて上段突きを繰り出すが、審判の旗は上がらない。ここで、植草側がVRを要求。これが認められて1点を返す。残り6秒で試合が再開し、互いに逆突きの応酬になるも、ここ

は齊藤に旗が上がり、大きな1点を追加する。焦った表情で攻める植草だが、齊藤は下がって逃げ切りを図る。場外に逃げた齊藤が反則注意となり、この時点で残り1秒。試合再開後、気持ちが緩んだのか、中途半端に足で植草を牽制する齊藤に対し、植草は動きをしっかりと見て、起死回生の上段蹴りを決める。これで一気に3ポイントが入り大逆転。植草が執念で勝利をもぎとり、4年連続の決勝に駒を進めた。

▽準決勝

宮原美穂 6-2 染谷香予

試合序盤、染谷がジリジリと圧力をかけて、宮原を試合場の端に追いつめてワンツーを仕掛ける。しかし、宮原は落ち着いて染谷の攻撃を捌き、カウンターの上段逆突きで1点を先取する。前に前にと出る染谷に、カウンターを狙う宮原。再びワンツーで攻める染谷に、宮原は1点目と同じカウンターを決めて2点目を奪う。点差が広がっても怯むことなく染谷は攻め、中段突きで1点を奪う。残り時間が40秒を切り、焦りが見える染谷の攻撃を落ち着いて捌

く宮原。逆転を狙って上段蹴りを連発する染谷の動きを見切った宮原が勢いに乗って突きで更に得点を重ねてゆき、6-2で勝利。宮原が初めて決勝に進出した。

▽決勝

植草歩 2-1 宮原美穂

3連覇のかかる植草と初優勝を狙う宮原。帝京大の先輩・後輩対決となった。序盤は、攻める植草に、攻撃の機会を窺う宮原の構図で試合が展開。試合が進むにつれ、宮原も積極的に前に出て攻める。両者に得点がないまま残り時間30秒、植草がワンツーを仕掛けると、宮原は、この日冴えているカウンターを放つ。宮原のみ得点が認められるが、植草側がVRを要求。これが認められて植草にも得点が入り1-1。同時の得点として先取は入らなかつたため、得点の並んだ両者ともに点を奪いに攻勢に出る。残り10秒で植草が踏み込んでワンツーで攻め、宮原も負けじと上段突きを返すが、ポイントは植草に付く。残り時間、互いに最後まで攻め合うがポイントは動かさず、植草が3連覇を達成した。



決勝＝植草（左）対宮原。突きを決める植草



準決勝＝宮原（右）対染谷。宮原が上段逆突きを決める



準決勝＝植草（左）対齊藤。植草が上段蹴りで逆転勝利

◎優勝Ⅱ植草歩選手（前年度優勝）

「連覇できたことで自分の成長を感じました。今年は苦しい内容の試合が多かったのですが、準決勝のような人を湧かせる試合ができて良かったです。蹴りについては、練習してきたテコンドーを活かしました。決勝で対戦した宮原は突きが速くてうまい選手です。攻めきれない部分があつて、宮原にスピードを活かした攻めを許してしまいました。後輩なので負けるわけにはいきませんでした」

○準優勝Ⅱ宮原美穂選手（学連）

「（植草）歩先輩とは普段から稽古を一緒にしますが、階級が違うので組むことはしません。なので、今日の試合は新鮮でした。重量級の選手が相手でも闘えることがわかったので、力強さを身に付け、駆け引きを学んで来年の選手権は確実に優勝したいです」



形個人戦

前年度優勝者、各地区代表、全空連推薦者が出場。形は指定形リスト、承認されている得意形リストから選択する。選手は試合ごとに異なる形を演武して、勝敗は5名の審判による旗判定で過半数の票を獲得したものを勝者とした。

男子(16名)

現役世界チャンピオンで大会5連覇中の喜友名諒(前年度優勝)は初戦、2回戦ともに5-0で勝利すると、準決勝では前回3位の杉野拓海(北信越地区)と対戦。杉野のウンズーに対し、喜友名はスーパーリンペイを演武。結果、5-0と喜友名が順当に決勝に進出した。

全日本選手権で4年連続準優勝の新馬場一世(実業団)は、こちらも初戦、2回戦ともに5-0で完封勝利して、準決勝では久保弘樹(近畿地区)との顔合せ。新馬場はチャタニヤラ・クーサンクー、久保がスーパーリンペイで勝負。判定の結果3-2で新馬場が勝利して、因縁の相手・喜友名の待つ決勝に進んだ。

決勝は5年連続で同じ顔合せ。先年と同じくアーナンを披露。力強さとキレのある、王者の迫力が溢れる演武で観客を魅了する。一方の新馬場は4年ぶりに決勝でスーパーリンペイを演武。緩急自在に動きをコントロールして正確さと力強さを見せた。判定の結果、全員が喜友名に旗を揚げて優勝が決定。全試合5-0と付け入る隙のない強さを見せた喜友名が、6連覇を達成した。

◎優勝II喜友名諒選手(前年度優勝)

「1年の最後の試合で勝って嬉しいです。連覇のことは、そこまで考えずに試合に挑みました。自分の道場の子どもたちも自分の勝った姿を見てモチベーションにしたいです。形は何度も練習して練り上げるしかありません。佐久本(嗣男)先生の練習をしっかりとこなして試合で勝ち続けたいです」

○準優勝II新馬場一世選手(実業団)

「世界チャンピオンを倒すためにもっと努力しなければなりません。勝つまでやるしかないのです、諦めないことが一番大切です。気持ちはきれいなので、まだまだ頑張ります」



優勝=喜友名諒(アーナン)



準優勝=新馬場一世(スーパーリンペイ)



第3位=杉野拓海(ウンズー)



第3位=久保弘樹(スーパーリンペイ)

■女子（16名）

世界選手権2連覇、本大会4連覇中の清水希容（前年度優勝）は1回戦、2回戦を5―0で勝利して、準決勝は前回3位の岩本衣美里（実業団）と対戦。清水はスーパーリンペ



準優勝＝大野ひかる（スーパーリンペイ）

イで岩本のアーナンを5―0で完封して順調に決勝進出を決めた。

前回準優勝の大野ひかる（九州地区）は初戦、2回戦ともに5―0で勝ち上がり、準決勝の相手は田中美佐稀（東海地区）。大野はパープ



第3位＝岩本衣美里（アーナン）



第3位＝田中美佐稀（スーパーリンペイ）

レン、田中はスーパーリンペイを演武。大野はこの試合も5―0で勝利して今年も決勝に進出。

決勝は昨年と同じ二人の争い。清水は5年連続でチャタンヤラ・クーサンクーを選択。安定した姿勢から柔らかくも力強い演武を見せる。対して、大野はスーパーリンペイで清水に勝負を挑む。大野は大きな動きで気迫に満ちた演武を披露。旗判定の結果、4―1で清水が勝利。完勝ではなかったものの清水が貫禄の5連覇を果たした。

◎優勝Ⅱ清水希容選手（前年度優勝）

「今回は初めて全日本で優勝できたときのように相手を気にしないで形を打てました。目標はありますが、先を見るのではなく、目の前のことをこなしたいと思っています。私はまだ変化の段階にあります。今後はパフォーマンスに強弱をつけられるようになりたいです」

○準優勝Ⅱ大野ひかる選手（九州地区）

「優勝を目指していたので悔しいです。形も力むところや技術的に足りない部分があるので、オリンピックの選考に向けて体づくりながら技術も磨いていきたいです」

組手団体戦

都道府県ごとに編成されたチームで男子は5人制、女子は3人制の点取り方式で争われた。

■男子（5人制・47チーム）

決勝では9連覇中の王者、京都府と初の決勝進出を果たした山梨県が対戦。京都府は先鋒の荒賀慎太郎が勝って勢いに乗ると、大将の荒賀龍太郎に回る前に3―1で優勝を決めた。京都府は36回大会以来続く連覇の回数を一桁の10に伸ばした。

■女子（3人制・46チーム）

決勝は前回覇者の千葉県と初優勝を狙う福岡県の顔合せになった。千葉県は先鋒の植草歩が福岡県先鋒の宮原美穂に勝利すると、中堅戦を落すものの、大将の多田野彩香が接戦をものにして見事優勝。千葉県が2年連続3回目の優勝を果たした。

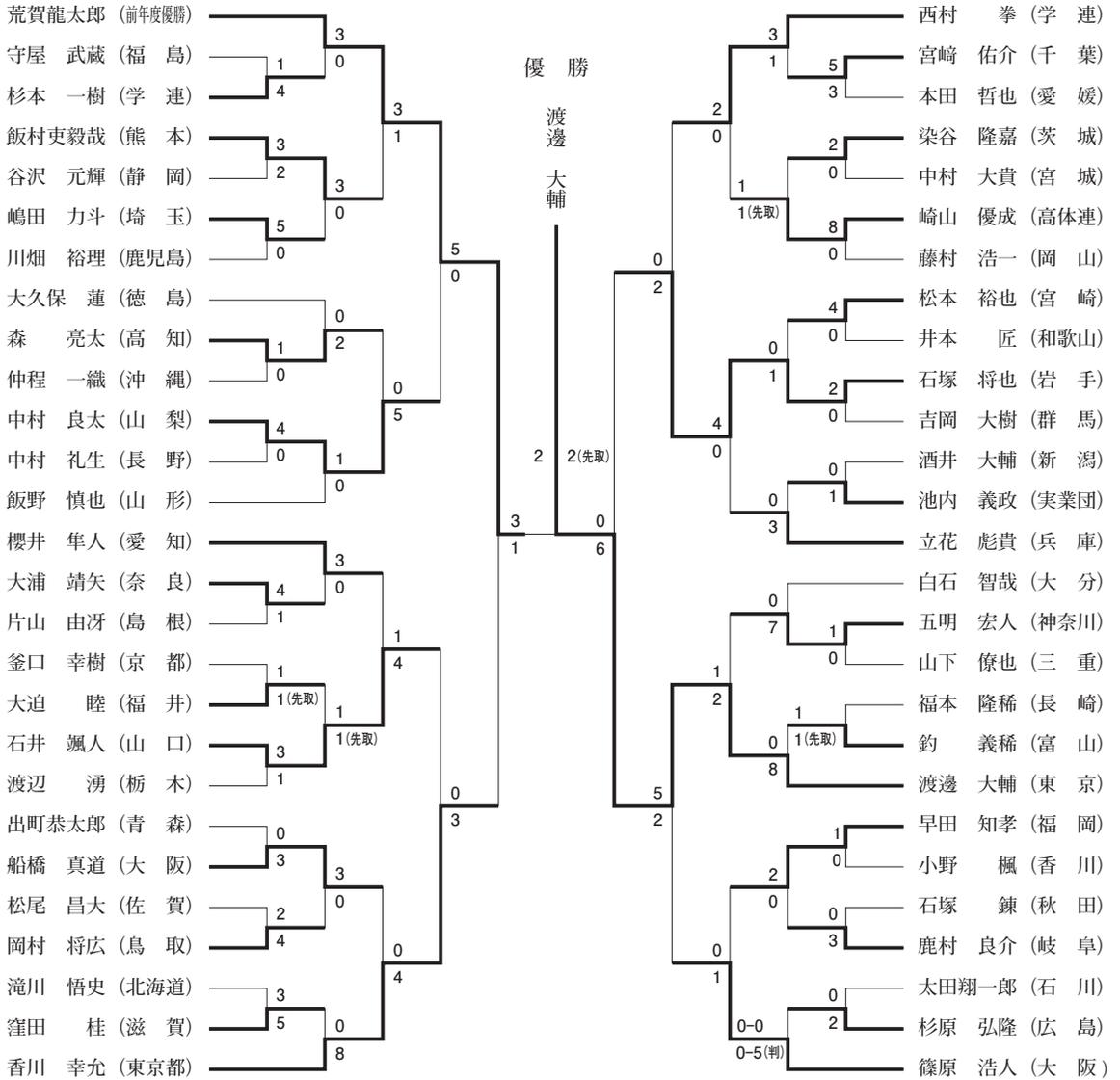
【団体戦大会結果】

- ◆男子Ⅰ①京都府、②山梨県、③神奈川県、千葉県
- ◆女子Ⅰ①千葉県、②福岡県、③兵庫県、神奈川県



優勝＝清水希容（チャタンヤラ・クーサンクー）

男子組手競技個人戦



男子形競技個人戦

- ▼一回戦
- 5 喜友名諒 (前年度優勝) セーパイ
- 0 年代海里 (東海) セイエンチン
- 1 下村世連 (九州) セーパイ
- 4 金城 新 (推薦) セーパイ
- 0 佐々木瞭友 (北海道) セーパイ
- 5 在本幸司 (東北) カンクウダイ
- 1 舩越大輔 (中国) セイエンチン
- 4 杉野拓海 (北信越) ジオン
- 3 久保弘樹 (近畿) セーパイ
- 2 本 一将 (関東) ジオン
- 4 上村拓也 (推薦) セーパイ
- 1 山中望未 (高体連) カンクウダイ
- 2 堀庭裕平 (推薦) セーパイ
- 3 西山 走 (学連) セーパイ
- 0 西原啓太 (四国) ジオン
- 5 新馬場一世 (実業団) セーパイ
- ▼二回戦
- 5 喜友名諒 クルルンファ
- 0 金城 新 クルルンファ
- 2 在本幸司 カンクウショウ
- 3 杉野拓海 エンピ
- 5 久保弘樹 クルルンファ
- 0 上村拓也 クルルンファ
- 0 西山 走 クルルンファ
- 5 新馬場一世 クルルンファ
- ▼準決勝
- 5 喜友名諒 スーパーリンペイ
- 0 杉野拓海 ウンスー
- 2 久保弘樹 スーパーリンペイ
- 3 新馬場一世 チャタンヤラ・クイサンク
- ▼決勝
- 5 喜友名諒 アーナン
- 0 新馬場一世 スーパーリンペイ

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光日本武道館会長



(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手からての精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

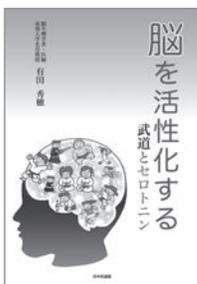
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著

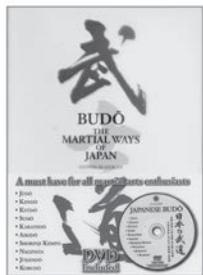


人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もがができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDO: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

田谷将俊 著

月刊「武道」記者



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)

第34回 若潮杯争奪武道大会

剣道男子

九州学院(熊本) 6回目の優勝

柔道男子

天理(奈良)が32年ぶりの優勝

第34回若潮杯争奪武道大会(主催
日本武道館、国際武道大学)が昨

年12月26日・27日に国際武道大学で
開催された。全国から選抜された高
校生が初日に剣道、2日目は柔道、
なぎなたの各種目で競技を行った。

□柔道の部(男女各16チーム)
1・2年生により、男子5人制、
女子3人制で実施。予選は4校のリ
ーグ戦、決勝は各リーグ上位2校に
よるトーナメント戦で争われた。

士館(東京)を1-0の僅差で降し、
32年ぶり3回目の優勝を果たした。
女子は、富士学苑(山梨)が昨年
優勝の夙川学院(兵庫)を2-0で
破り、栄冠に輝いた。

□剣道の部(男女各24チーム)
1・2年生により、5人制で行わ
れ、予選は3校によるリーグ戦、決
勝は各リーグ1位のトーナメント戦
によって覇が競われた。

男子は、決勝で天理(奈良)が国

士館(東京)を1-0の僅差で降し、
32年ぶり3回目の優勝を果たした。
女子は、富士学苑(山梨)が昨年
優勝の夙川学院(兵庫)を2-0で
破り、栄冠に輝いた。

男子決勝は、九州学院(熊本)と
佐野日大(栃木)が対戦。九州学院
が先鋒で一本勝。次鋒、中堅と引き
分けた後、副将戦で二本勝。九州学
院が佐野日大を2-0で降し、2年
ぶり6回目の優勝を果たした。

女子は県立守谷(茨城)が3連覇
を狙う筑紫台(福岡)を3-1で退
け、王座を奪還。3年ぶり7回目の
優勝を飾った。



剣道男子決勝=九州学院対佐野日大



柔道男子決勝=天理対国士館

剣道女子優勝Ⅱ県立守谷(茨城)



剣道男子優勝Ⅱ九州学院(熊本)



柔道女子優勝Ⅱ富士学苑(山梨)



柔道男子優勝Ⅱ天理(奈良)



なぎなた女子優勝＝
浦島裕加(岩手県立釜石商工)



なぎなた男子優勝＝
古舘佳樹(福島県立葵)

□なぎなたの部(男子24名、女子48名)
1～3年生により、男女とも予選は3人によるリーグ戦、決勝は各リーグ1位によるトーナメント戦で覇を競った。男子の決勝は、古舘佳樹(県立葵)が山下大輝(奈良育英)からすね二本を奪い、優勝を決めた。女子は、浦島裕加(釜石商工)が佐藤夏音(会津学鳳)から面二本を決めて優勝を果たした。

【大会結果】

■剣道

▽男子Ⅱ①九州学院(熊本) ②佐野日大(栃木) ③県立高千穂(宮崎)、奈良大附属(奈良)

▽女子Ⅱ①県立守谷(茨城) ②筑紫台(福岡) ③札幌日大(北海道)、北海道栄(北海道)

■柔道

▽男子Ⅱ①天理(奈良) ②国士舘(東京) ③東海大付属相模(神奈川県)、東海大付属仰星(大阪)

▽女子Ⅱ①富士学苑(山梨) ②夙川学院(兵庫) ③帝京(東京)、藤枝順心(静岡)

■なぎなた

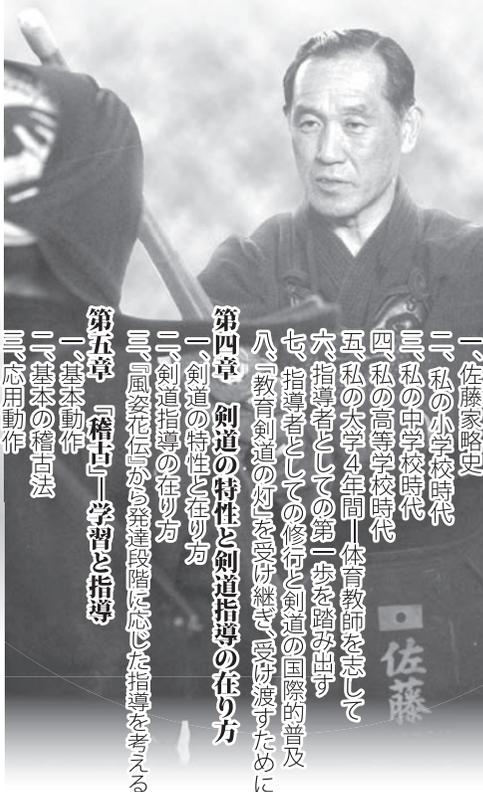
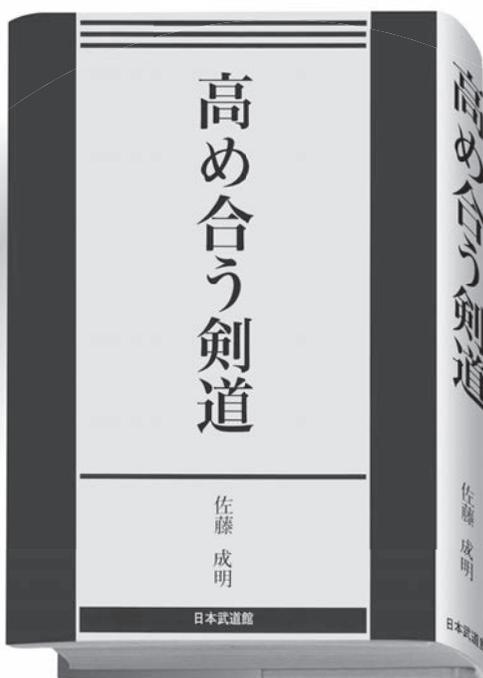
▽男子Ⅱ①古舘佳樹(福島県立葵) ②山下大輝(奈良育英) ③和田イワヤン龍(岐阜県立大垣商業)、中村優太(神奈川大学附属)

▽女子Ⅱ①浦島裕加(岩手県立釜石商工) ②佐藤夏音(福島県立会津学鳳) ③山根千慶(岡山県立美作)、渡邊若奈(愛知・東海学園)

◎好評発売中

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤 成明 著



目次

第一章 剣道小史―剣技・剣術・剣道の歴史

一 奈良時代～江戸中期―

闘争の技術から竹刀剣術の誕生まで

二 江戸時代中期以降～現在―剣術から剣道へ

第二章 剣道と教育

一 教育に関する基礎知識

二 「三育思想」

三 「教育基本法」と「学習指導要領」

四 「礼」の教育について

第三章 自分史を綴く

一 佐藤家略史

二 私の小学校時代

三 私の中学校時代

四 私の高等学校時代

五 私の大学4年間―体育教師を志して

六 指導者としての第一歩を踏み出す

七 指導者としての修行と剣道の国際的普及

八 「教育剣道の灯」を受け継ぎ、受け渡すために

第四章 剣道の特性と剣道指導の在り方

一 剣道の特性と在り方

二 剣道指導の在り方

三 「風姿花伝」から発達段階に応じた指導を考える

第五章 「稽古」―学習と指導

一 基本動作

二 基本動作

三 応用動作

四 稽古への取組方と方法

五 剣道における形の重要性

第六章 試合について

一 試合(一)―先達の文献から

二 試合(二)―剣道の「術理」

終章 高め合う剣道

一 稽古の意義と心得

二 剣道に関する古今の訓え

三 互いに学び高め合う教育剣道のために

“互いに学び高め合う教育剣道のために”

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。

これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁・本体2400円十税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)

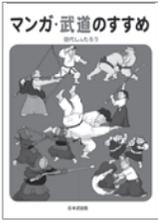


刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

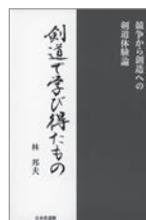


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。